

平成25年 6月7日

中高一貫教育校の開設準備に関する検討状況

平成25年3月に策定した「福井県における中高一貫教育校（附属中学併設）の設置方針」に基づき、本年4月から県立高志高等学校とともに「中高一貫教育校開設準備会議」を開催し、開設に向けて必要となる事項を協議しており、これまでの検討状況について報告する。

1 学校規模および教育目標

県立高志高等学校に附属高志中学校（仮称）を併設し、中学と高校を通じた6年間の一貫教育を平成27年4月から行う。

(1) 学校規模

- ・附属高志中学校（仮称） 1学年3学級 定員90名（平成27年4月開校時）
- ・高志高等学校 1学年7学級（定員は未定）（平成30年度見込み）

※高志高等学校には、附属中学校から入学している生徒に高校から受験して入学する生徒が加わる。

(2) 教育目標

- ・地域社会のリーダーとなる高い学力と豊かな人間性
- ・ふるさと福井への深い知識と大きな誇り
- ・世界に通用する語学力と国際感覚

2 中学入学の選抜方法

- ①6年間の教育内容に対応できるかどうかを判断するため、本県独自の学力テストなどを参考に、小学校における学習状況を見極めるための適性検査を実施する。
- ②6年間の教育の中で必要となる文章を読み取る能力や、それを基に自分の考えを表現する力を判断する。
- ③その他、面接の実施の可否等については、今後検討していく。

入学を希望する児童には、日ごろの小学校の学習を十分行うことと、たくさんの本を読むことを推奨したい。

3 特色ある教育プログラムの設定および教育カリキュラムの編成

- ①地域社会や国際社会のリーダー育成を目指して独自の「国際人材教育プログラム『高志学』（仮称）」を設置し、福井の先人等の研究、国際経済や先端科学等の課題研究等を進め、英語によるレポート作成やプレゼンテーションを実践する。
- ②これまで定められている学年ごとの習得内容にとらわれず、学年間、中・高間で学習する内容を移行させるなど、学校独自の弾力的なカリキュラム編成を行う。
- ③教科書で扱われる作品等（日本の古典や英文学など）について、原文や翻訳文を用いて、ものごとの本質や原典に戻って学ぶ資質を育てる。
- ④中学段階から生徒それぞれが目標を明確にして効果的な学習を進め、高校では学年の進捗とともに、自らの学習成果に基づき国内外のコンテスト等にチャレンジするほか、夢を実現するための進学対策を充実していく。

4 指導体制の確立

- ①中学1年から高校3年までの6年間を一貫して責任を持って指導する教員チームを形成する。
- ②開設準備段階において、中高一貫教育校への派遣研修や専門家を招いての校内研修の充実など、万全の教員養成に努め、中高一貫教育の中核となる教員を育てる。
- ③各教科において、分かりやすい授業で優れた実績を挙げている授業名人やTOEICの高スコア等を持つ教員などを配置する。
- ④大学研究者や企業経営者など研究や実務面で優れた外部の客員教員を招へいする制度を検討する。

5 充実した学校生活

- ①6年間を通して、生徒が自ら考え企画・運営する中高合同の生徒会活動の実施を検討する。
- ②部活動では、これまでの高志高校の伝統を受け継ぐスポーツや文化活動を、中学と高校が互いに助け合い、短時間でも集中できる気風を育てる。
- ③校内で中・高生が共に自主的な学習ができる環境を整える。